

# 郷土資料館だより

Vol.37 No.3  
2015.3.15

## 企画展示室 「楽寿園の歴史—江戸時代から今日まで—」 報告

- 開催期間 平成26年10月11日(土)～11月30日(日)
- 会場 郷土資料館1階 企画展示室 ●展示資料数 78点 ●入場者数 10,966人

菊まつりの開催時期に合わせ、楽寿園の歴史を振り返る企画展を開催しました。現在楽寿園となっている小浜池周辺に寺社が立ち並んでいた当時の絵図や、小松宮別邸が造営されて以降代々の所有者にまつわる品々、市立公園となつてからの懐かしい動物や遊具など、現在の楽寿園になるまでの歴史を資料とパネルで振り返る展示になりました。パンフレットも品切れになるほど好評で、三島市民の「楽寿園愛」の深さを感じました。



楽寿園の歴史展示の様子

〈関連事業〉◆「みんなの楽寿園思い出の写真展」同時開催

展示室内の壁一面を会場とし、楽寿園で撮影したなつかしい写真を持ち寄ってもらい展示しました。

## 企画展示室 「弥生スタイル～弥生人が創造した意匠と造形～」 報告

- 開催期間 平成26年12月12日(金)～平成27年1月12日(月・祝)
- 会場 郷土資料館1階 企画展示室 ●入場者数 2,509人

静岡県埋蔵文化財センターとの共催で巡回展を行いました。県内各地で出土した文化財の中から優れた意匠や造形を持つ弥生時代の資料を展示するもので、三島市南二日町の青木原遺跡から出土した小銅鐸も展示されました。当時の輝きを残したまま出土したとても貴重なもので、状態を保つため真空容器に入れて展示されました。

来館者には熱心な考古ファンも多く、古代人の生み出した意匠や造形の豊かさをじっくり堪能していました



弥生スタイル展示の様子

## 企画展示室 「新規収蔵品展」 開催のお知らせ

- 開催期間 平成27年4月18日(土)～平成27年6月28日(日)

当館では地域の歴史や文化に係る資料の収集に努めており、毎年多数の歴史・民俗資料を新しく収蔵しております。今回の企画展では、平成24年度以降に市民の方からの寄贈や新規購入などにより新たに収蔵した資料の中から、三島市安久の杉山家に残されていた古文書や書籍、食器類、購入した浮世絵などを展示いたします。

杉山家は江戸時代には名主などを勤め、明治時代には初代中郷村村長杉山正平を輩出しています。江戸時代の年貢徴収など地域史研究において貴重な古文書のほか、和歌や国学、漢詩、園芸など幅広いジャンルの書籍が多く残されており、地方豪農層の文化芸術への関心の高さが窺えます。



上：「明治歌友肖像千人一首」橘道守編、明治22年全国から千人の歌人を選んで収録された本で、歌人同士の交友のために作られたものです。杉山家の人物も選ばれています。

## 郷土教室・体験イベントの報告

郷土資料館では、楽しみながら学べるイベントをボランティアさんと一緒に開催しています。平成26年10月から平成27年2月までに行った事業のうちの一部を紹介します。



### 郷土教室「子どもと大人の美術体験！ ピューターでメダルを作ろう！」

日程：平成26年11月2日（日）  
内容：模様を彫った石膏の型にピューターという金属を流し込みメダルを作る。事前申込制。  
参加者：9人  
協力：AFCC（ART FOR CHILDREN CLUB）



### 郷土教室「楽寿園の自然」

日程：平成26年11月9日（日）  
内容：葉っぱの拓本、どんぐりで遊ぼう、三島溶岩の顕微鏡観察、溶岩めぐりツアー。  
参加者：75人



### 郷土教室「ミニチュアうどんをつくろう」

日程：平成26年11月22日（土）  
内容：製麺機で小麦ねんどをうどん状にし、クイズに答えて具をもらい飾り付ける。  
参加者：71人



### 郷土教室「ワラ細工をつくろう」

日程：平成26年12月14日（日）  
内容：ワラでお正月飾りをつくる。  
参加者：55人



### 郷土教室「毛糸でリリアンあみをして ひつじを作ろう」

日程：平成27年1月11日（日）  
内容：空ペットボトルを使いリリアン編みで羊の編みぐるみを作る。事前申込制。  
参加者：13人

### 平成27年度の郷土教室の予定

5～3月の土日など月3回程度  
基本的に申込み・費用は不要  
（ただし、大人の楽寿園入園料は必要）  
時間 10：00～12：00、13：00～14：30

#### 【主な体験】

講座名	体験内容（例）
古代のくらし	火起こし、勾玉づくりなど
昔のどうぐ	石臼、製麺機など
楽寿園の自然	どんぐりで遊ぼう、溶岩の観察など
昔のあそび	コマ・けん玉など

お気軽にお越しください。

## 三島の歴史とジオポイント・3

### —三島宿最古・若宮八幡神社の石燈籠—

三島宿の範囲は、宿場の東（大場川右岸）、西（境川左岸）、南（言成地蔵の北側交差点）、北（佐野街道が菰池低地に沿って東曲する所）に、それぞれ置かれた「見附」の内側です。

宿内には、竿の彫り込みから、江戸時代に設置されたことが確認できる石燈籠が35基残っています。（17世紀代1基、18世紀代15基、19世紀代19基）

三島宿最古の石燈籠は、西若町8番7号に鎮座する、現在の西町11ヶ町の総鎮守「若宮八幡神社」にあります。

境内には5基の石燈籠があり、3基は江戸時代に街燈として街道沿いに設置されたものが、街燈の電気化や道路整備に伴い神社境内に移設されたものです。

若宮八幡神社に奉納されたと思われる2基は、竿が円柱状で他と異なります。境内参道左手の1基は長岡凝灰岩中部層製（数百万年前、伊豆半島が南海の火山島群だった頃、噴火で海底に堆積した火山灰が固結したもので、現在の長岡温泉周辺の石切り場産。風化に弱い石材）で古い物ですが、風化で表面が剥離し、奉納時期など何もわかりません。

参道右手の1基は、宝珠と笠は長岡凝灰岩中～上部製、火袋はデイサイト製（ケイ酸分に富み、角閃石を含む安山岩、伊豆の国市北江間付近で産出）、中台・竿・基礎は灰色を呈し斜長石と大粒の輝石の斑晶に富む、風化しにくい火山岩（安山岩～玄武岩質、産地不明）です。

風化に耐えた竿の彫り込みには、「奉□」「豆州三嶋若宮八幡」「萬治二己亥才三月吉日」「三島木町□甚兵衛」とあります。

つまり、1659年3月に木町の甚兵衛氏が若宮八幡神社に奉納したもので、三島宿に現存する最古の石燈籠です。（2番目は宝永8年・1711年に小田原藩主が三嶋大社に奉納した、神門前に置かれている一対です）。

本燈籠は色々なことを教えてくれます。

江戸時代前期に設置された本燈籠は、宝永・安政・北伊豆地震などで少なくとも3回は倒れているはずですが、安政地震の際には本殿が倒壊した記録が残っています。宝珠・笠・火袋など上部の石材が下部と異なるのは、何回も破損し、修理・他の燈籠からの部分転用を行ったためでしょう。特に火袋は新しく、北伊豆地震（1930年）後に作り直されています。

萬治2年の三島宿には、木町と言う公称町名はありません。古文書記録によると、慶長7年・1602年頃東海道の整備に伴い、周辺住民を街道沿いに移住させ「新宿町」が成立しましたが、住民の増加により、1町としての統制が取れなくなり、宝暦7年・1757年に「木町」と「茶町」に分けたとされています。

本燈籠の奉納者は1659年に自身の住所を「木町」としています。新宿町成立から57年しか経っていない段階で木町の名称を使用しているのは、新宿町へ移住した人達の母村が異なるなど、当初から住民は2グループに分かれ「木町」「茶町」の通称を使用していた可能性があります。

本燈籠は三嶋宿→三嶋町→三島市の変貌を356年間も観て来ました。これからの三島を末永く観続けてもらうための方策を、私たちは考える必要があります。

（郷土資料館運営委員 増島淳）



若宮八幡神社



三島宿最古の石燈籠



竿の彫り込み

## 楽寿園の歴史

### —楽寿園開園の経緯—

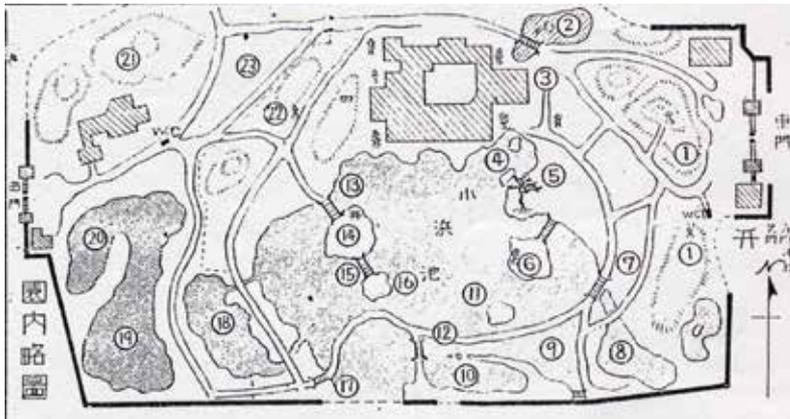
前回の企画展「楽寿園の歴史—江戸時代から今日まで—」を開催するにあたり、地域新聞（三島ニュース、三島民報）、三島市弘報（現広報みしま）から楽寿園開園の経緯を調べたので報告します。

現在、75,474㎡の敷地を持つ市立公園として三島駅南側にある楽寿園は、江戸時代には数多くの寺社やお堂が建ち並び、また農業用水や生活用水の水源となっていた場所でした。明治23年(1890)小松宮別邸となり、大正期以降朝鮮王族李王世子垠夫妻の別邸となります。後に、昭和2年(1927)、緒明家の所有となります。昭和26年、市制施行10周年記念事業案として緒明邸の一部を市立中央公園にという構想が提案されます。緒明邸の開放を望む声は市民の間にもあり、三島ニュース昭和25年1月1日の記事には、かつては皇室族が暮らしていた場所かもしれないが、キツネやタヌキの棲家になっているのではないかと。その地に、公園や観光ホテル、市役所、商店街などを置き、活用してはどうかという市民の意見が載せられています。



開園時の楽寿園（翁島）（楽寿園所蔵アルバムによる）

昭和26年春、3人の市議による小委員会により緒明邸買収の話し合いが開始されます。その中で、本多静六氏（東京府の森林経営に携わる、林学博士。造園家。）井下清氏（東京市公園課長を務めた、造園学者。東京の公園の礎を築いた。）が三島を訪れ調査を行っています。はじめ交渉は滞っていましたが、会談などを行い何度か足を運ぶうち、緒明氏から市の希望を受けるとの回答が得られ、9月には緒明邸買収が決定します。（この時、市に譲渡を予定された部分は、緒明邸の西門・東門とを結び、池（小浜池）旧御殿（現楽寿館）など4棟の建物を含む、中央部分の約6千坪（約2万㎡）でした。）10月11日、市は緒明氏に対して、緒明氏所有の水泉園（白滝公園）も市で借り受け児童公園として開放すること、境界線は今後の話し合いによって決定すること、などを申し入れ、緒明邸中心部の市への譲渡が確定します。確定した市への譲渡面積は約6千坪で、当初予定されていた所とほとんどかわらない場所と思われます。その後、市からの要望により、北側の境界線が当初の6千坪から大幅に拡大され、買収面積は9,462坪（約3万㎡）となり、池の面積約1,500坪を加え、総計10,965坪となります。計画は、市の観光事業委員会により井下氏の下「三島を伊豆の観光基地」にするべく進められ、市立公園の一般開放は4月上旬と見込まれましたが、実際の開園は7月までずれ込み、昭和27年7月15日の開園となります。



園内略図（三島市弘報（現広報みしま）第49号 昭和27年7月15日から抜粋）

### —楽寿園名所—

- |        |          |
|--------|----------|
| 1 さぎの森 | 13 三條橋   |
| 2 乙女が淵 | 14 宮島    |
| 3 寿橋   | 15 三條小橋  |
| 4 夫婦島  | 16 みそぎ島  |
| 5 憩の松  | 17 三景橋   |
| 6 翁島   | 18 あやめが池 |
| 7 寝覚の谷 | 19 緑の池   |
| 8 お茶水  | 20 雀の池   |
| 9 はやの瀬 | 21 雀の森   |
| 10 芹の瀬 | 22 常盤の森  |
| 11 浮寝島 | 23 子供の広場 |
| 12 小松堤 |          |

## 佐野・安久のドンド焼き

毎年1月中旬になると市内各所でドンド焼きが行われています。地域によってはドンドン焼きと呼ばれることもあります。ドンド焼きとは小正月に行われる火祭りで全国各地で行われており、正月飾りが燃やされ、道祖神のお祭りとして行われる場合が多いようです。ただし、市内では小正月の決まった日ではなく、それに近い土日などに行われるようになってきました。

今回は市内の佐野地区と安久地区のドンド焼きの様子を紹介します。

### 【佐野地区】

ドンド焼きは1月11日（日）の夕方に行われました。現在では子供会主体から地区内の組が主体となって行われています。まず、ドンド焼きの数日前から正月飾りが集められて近くの道祖神が飾り立てられます。そして、前日頃から火祭りをする場所に山が作られていきます。組単位で行われるため、地区内のあちこちで行われ、山の形や大きさも様々です。ただ、今回見ることができたものはどれも正月飾りと竹を主体にして山が作られ、たいていは中心に長い竹が一本立てられていました。

当日は風が強かったこともあり、火が付けられるとすぐに燃え上がり、火が盛んな間は直接顔を向けられないほどでした。山が崩れ、火が収まってくると参加者が銘々持ってきている団子を焼き始めます。団子は竹の先に数個付けられ、拳大のものが多かったようです。大人には酒とつまみが、子どもたちにはお菓子が配られ、なかには組の新年会を兼ねるところもありました。子どもも大人も含めた地域全体の行事といった感じを受けました。

### 【安久地区】

1月12日（月・祝）の朝から行われました。こちらは事前に集められた正月飾りや竹などを使って、地区内の田んぼにあらかじめ大きな山が作られていました。かつては4つの地区に分かれていましたが、今では1ヶ所で行っています。4ヶ所に分かれていたころは、子どもたちは当日までに竹やお飾りの取り合いなどもしていたそうです。行事の主体は子供会に代わり「子供クラブ」という団体が担っています。

他の地区と同じように山に火が付けられると盛大に燃えあがり、火が収まってくると竹に刺した団子を焼き始めます。拳大よりもひと回りほど大きな団子が付いているように見えました。団子が焼きあがった頃に豚汁、お汁粉、甘酒が振舞われ、ビニールシートを敷いて豚汁などを食べながら持参のタレを付けてお団子を食べる親子の姿などもありました。



飾り付けられた道祖神（佐野）



ドンド焼きのうちの1ヶ所（佐野）



団子にタレをつけて食べる親子（安久）

## 「むかしの暮らし」 学びに来たよ！～校外学習～

小学校3年生の授業の一環で、今年もたくさんの小学生が郷土資料館にやってきました。

三島の暮らし体験学習室での職人や農家の仕事や暮らしについての説明、石臼・足踏み式ミシン・製麺機などかつて実際に使われていた道具を使った体験、企画展「はかる道具」の見学など、見て、聞いて、触って、みんな熱心に勉強しています。

とても楽しかった！また遊びに来るね！という明るい声に、スタッフも元気をもらっています。



三島の暮らし体験学習室内、復元農家を見学



道具体験（足踏み式ミシン）



企画展「はかる道具」見学

平成26年度  
小学校受入れ実績

三島市内 11件  
三島市外 1件  
(長泉町)

## 刊行図書のご案内

### 『三島市郷土資料館研究報告7』 3月31日 刊行予定 頒布価格 800円

館職員による調査・研究成果や伊豆の近代史、近年注目が集まっているジオツアーの成果報告など、地域史研究に欠かせない一冊です。研究諸氏のみならず一般市民の方にもわかりやすく、読みやすい内容になっております。ぜひご一読ください。

【内容】(掲載順)

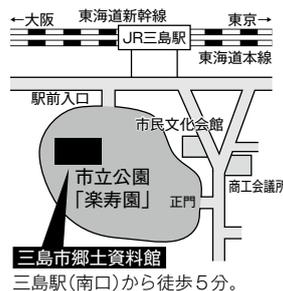
- 桜井 祥行 「明治初期地方政治の萌芽  
— 柏木忠俊による伊豆国の民会—」
- 笹山 曜子 「小松宮別邸造営前の小浜池周辺開発計画  
— 「三嶋倶楽部」結成とその終焉—」
- 大川 裕代 「嘉永七年十一月四日大地震  
— 三島宿の被害状況について—」
- 大川 裕代 「楽寿園開園の経緯と変遷  
— 1960年代を中心にして—」
- 平林 研二 「寛政期三島宿での拝借金返済による  
問屋場会計の圧迫」
- 増島 淳 「『ジオツアー三島宿』の成果 (3)  
— 三島宿・江戸時代後期の道の復元—」



上：「寛政七卯年三嶋宿問屋会所々ヶ年勘定帳」  
(文化二丑年六月)

### 郷土資料館のご利用案内

〒411-0036  
静岡県三島市一番町19-3 楽寿園内  
TEL055-971-8228 FAX055-971-6045  
開館時間 午前9時～午後4時30分(11月～3月)  
午前9時～午後5時(4月～10月)  
休館日 毎週月曜日(祝日のときは翌日)／  
年末年始  
入館料 無料(ただし大人は楽寿園入園料が必要)



### 郷土資料館だより

vol.37 No.3 (第111号)  
発行日 平成27年3月15日(年3回発行)  
編集 三島市郷土資料館  
発行 三島市教育委員会  
E-mail: kyoudo@city.mishima.shizuoka.jp  
URL: http://www.city.mishima.shizuoka.jp/kyoudo/